

## 新任 JICA 海外協力隊員 7 名に対する歓迎の言葉

JICA 海外協力隊は、1971 年にマラウイに初めて派遣され今年で 55 年、マラウイは派遣数の累計が世界で最も多い国です。昨年、天皇陛下が御臨席された青年海外協力隊発足 60 周年式典でも、元マラウイ隊員が中心になって熱気を牽引しました。J-Wave ラジオパーソナリティの長井優希乃さんや、掛け算ソングの田仲永和さん達です。

私は赴任してまだ 4 ヶ月ですが、マラウイ隊員の活動を各所で見させて頂き、その前向きなパワーにいつも感銘を受けています。日本から遠く離れた厳しい生活環境ですが、皆さん任地で人をつないで、各分野の技術とともに想いを伝えて頂ければと思います。活動を通じて日本人のすばらしさを伝えて頂けるものと信じています。

昨日、ジーン・マタンガ・エネルギー鉱山大臣に会いました。中東情勢の影響を受けた燃料不足の中で奔走し、日本との重要鉱物の協力も推進される重要閣僚です。彼女は JICA 海外協力隊員に算数を学び、「今自分があるのは協力隊員のおかげだ」と心から感謝してくれています。閣僚の中には同様に JICA 海外協力隊員に学んだ方が何名もあり、遠隔地の村で会話をしても、昔お世話になった隊員のお名前を口にします。隊員の活動を通じた人の絆がこのように浸透した国は、世界的にもそうない筈です。

皆様には、コミュニティの方々と一緒に涙を流し、喜びを分かち合う心身ともに体当たりの生活が待っていると思います。考えて工夫して、やれるところまでやったら、国民的ヒットソングが生まれ、世界だって動かすことができるかもしれないことを、先輩方がマラウイで実証しています。楽しみながら、学びや共感を広めて頂ければと思います。より沿う中で、マラウイ人の良さを引き出して頂ければと思います。

皆さんが学ぶことも多々あると思います。厳しい環境の中で、人生の中で本当に大切なことをマラウイの方々に教わったと言われる方は多く、経験は一生ものだと思います。先週ムズズで PENJANI Malawi というビジネスを立ち上げた元隊員のムスクワ野原さんにお会いしました。マラウイの良さを探して、引き出して世に届けるというコンセプトでチテンジ製品を製作されています。彼女が何気なく述べた「人に善意で誠意をもって接すると回りまわって自分に幸せが戻って来ることがありますが、マラウイはそうした幸せが頻繁に感じられる国です」との言葉は大変印象的でした。野原さんは、世界中の元隊員の中から選ばれる JICA 社会還元賞を来月受賞されます。

在マラウイ日本国大使館は皆様のご活躍を心から応援しています。安全と健康が最優先ですので、無理せず注意することを怠らずに身体を大切にしてください。困ったことがあれ

ば、ボランティア調整員を通じてご相談下さい。大使館はいつでもサポートします。

任務開始にあたり、おひとりずつ小さなダルマをプレゼントします。よろしければ片目を入れて初心の目標などを念じ、そばに置いて頂ければと思います。そしてマラウイでの任務終了の際に、両手一杯の達成感とともに両目を入れて頂ければと思います。

(了)